

むかしむかし、森のおくに、体が金色にかがやくシカがいました。

ある日、シカは川でおぼれている男の人を見つけた。

シカは、冷たい水の中にとびこんで、自分の背中に男をのせて岸まで運び、助けてあげました。

男は涙を流して言いました。

「こわかった……ありがとうございます。なにかお礼をさせてほしい」

シカは静かに答えました。

「お礼はいりません。ただ、わたしのことを誰にも言わないでください。わたしをねらってくる人間がこわいのです」

男は「やくそくします」と誓いました。



ある日、王さまが「金色のシカを捕まえた者には、たくさんのお金を与えよう」と言いました。

男はシカのことを知っています。

「金色のシカのこと、誰にも言わない」とシカと大事なやくそくをしていたので、迷いました。

しかし、男はお金に目がくらみ、大事なやくそくをやぶって、王さまをシカのところへ案内しました。

王さまは弓でシカをねらいます。

シカは逃げずに、王さまに言いました。

「王さま。わたしを弓で射るまえに、どうしてここが分かったのか教えてください」

王さまは、となりにいる男が教えたのだと答えます。

すると、シカの中から、涙がこぼれました。

「悲しいのは、捕まえられるじつではありません。

だいじ 大事な やくそく



仏のたより Bメール④

助けたはずの人の心が、お金に負けてしまったことが悲しいのです」

それを聞いた王さまは、きれいな心をもったシカを捕まえようとしていたことが恥ずかしくなって弓をおろしました。

「シカよ、すまない。よくばりだったのは、この男だけではない。わたしもだ……」

その後、王さまは無駄な殺生をしなくなったといふのです。

※ジャータカ物語482話『ルル鹿本生』より

はなしあってみよう

- お金に困っているときに、たくさんのお金をあげると言われたら、大事なやくそくを守れますか？
- 自分が間違っていることが分かったとき、それを認められますか？

※イラスト：生成 AI Gemini を使用して作成

テレホン法話 こころの電話



さあ よい おはなし
075 **341-0874**

一度お聞きください。こころにふれる電話を24時間いつでも送りつけます。あなたへの3分間!! 電話通話料(約10円)

浄土真宗本願寺派 京都教区教務所

2026 年秋 発行